



2012年2月25日発行

妊娠中の食生活が生まれてくる子どものアトピー性皮膚炎の発症に影響する可能性があるという研究が発表されました。納豆を毎日食べた女性の子どものアトピー性皮膚炎の発症率が低く、バターを毎日食べた女性の子どもの発症率が高いという傾向のようです。具体的にいうと、納豆を毎日食べた女性から生まれた子どもは7%しかアトピーを発生しなかったのに対し、そうでない場合は19%。一方、バターを毎日食べると35%まで上昇したとの報告です。新聞に載ったのできっと毎日納豆を食べる妊婦さんが増えるでしょう。フードサディズムです。妊婦さんにマグロがよくないとか、キンメが悪いとか、食べ物の制約が多いと感じます。納豆だって毎日とればアトピーは防いでも何かデメリットがあるかもしれません。バランスのよい食事が大事であると思います。妊婦さんにあれも悪い、これも悪いという食べ物がなくなります。毎日バターをたっぷりつけてトーストを食べるのはやめるにしても時々ならかまいません。1日のカロリーを計算してカロリーの摂りすぎを抑え、食事を工夫すれば体重増加も抑制でき、楽なお産につながります。赤ちゃんの心配も大事ですが、自分の体をこまめに考えましょう。女性が妊娠中も出産後も美しくいられるための工夫をしてみてください。必ず子どもを2人3人と欲しくなるでしょう。

2011年度9月～12月のARTの成績を報告いたします。

採卵件数・・・111例【～29歳7例、30～34歳14例、35～39歳43例、40歳～47例】

受精方法別

}	体外受精・・・82例
	顕微授精・・・28例

融解件数・・・117例【～29歳13例、30～34歳28例、35～39歳49例、40歳～27例】

移植件数・・・120例【～29歳13例、30～34歳29例、35～39歳51例、40歳～27例】

妊娠数・妊娠率（移植あたりの胎嚢陽性率）・・・43例(35.8%)

【～29歳7例(53.8%)、30～34歳13例(44.8%)、
35～39歳17例(33.3%)、40歳～6例(22.2%)】

11月から3日目の卵を凍結し、融解して胚移植する症例を増やしてみました。結果、少し妊娠率が低下しています。やはり胎盤胞移植の方が確実に妊娠するということです。症例によっては3日目で卵の発育が止まってしまう例もあるので発育が止まってしまう前に移植する方法を少数例ですが試みています。いい受精卵をつくるのが妊娠への第一歩ですが、胚移植できないと、治療も続けられないので、casebycaseで続けてみようと考えています。

